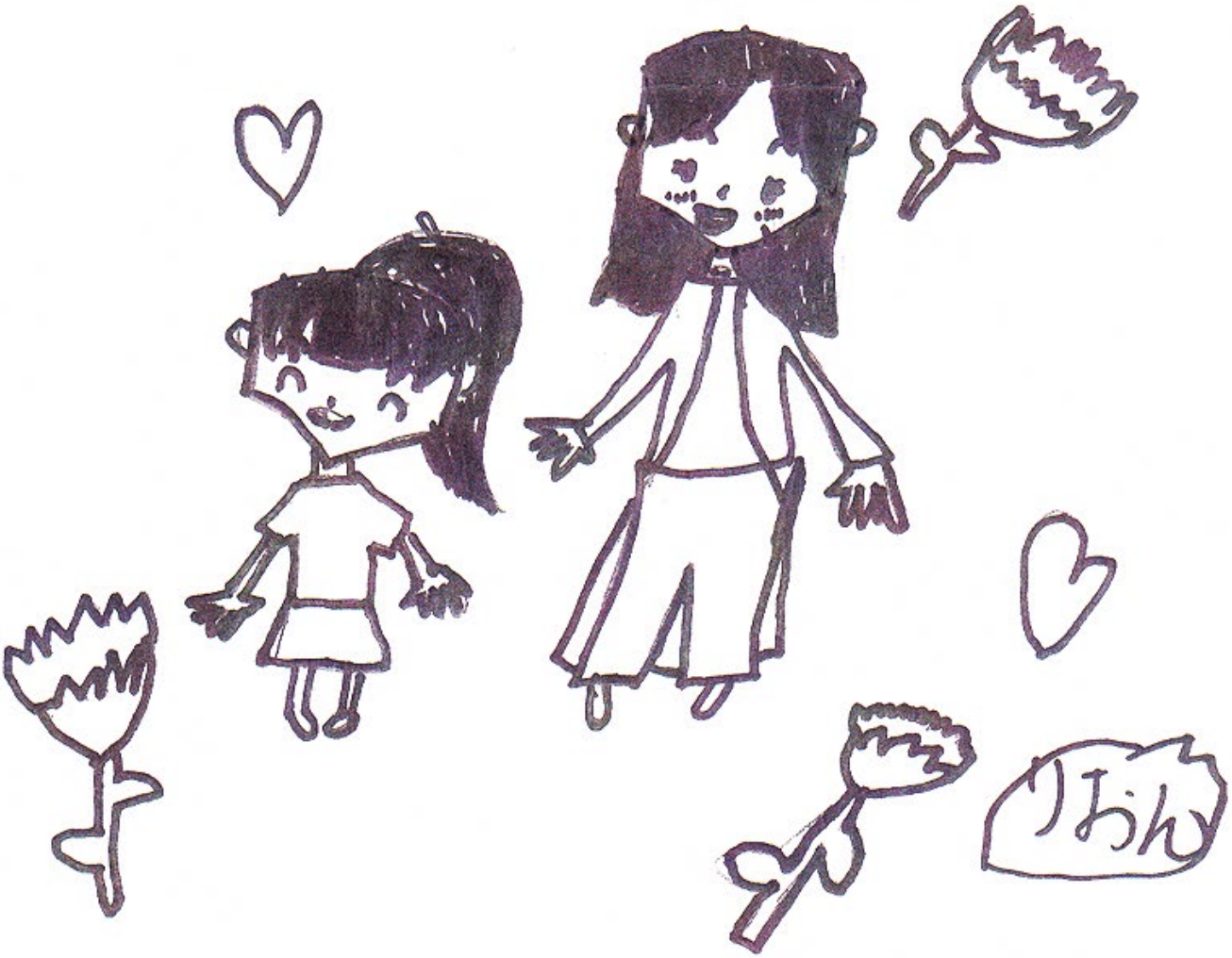
とよたら園 美肌通信

Vol.106

5月号



5月号

とまたち美肌通信5月号の表紙は、

すてきなお花とハートにかこまれながら、

かわいらしい女の子が2人でピクニックかな？

たくさんのこいのぼりも元気に泳いでます！

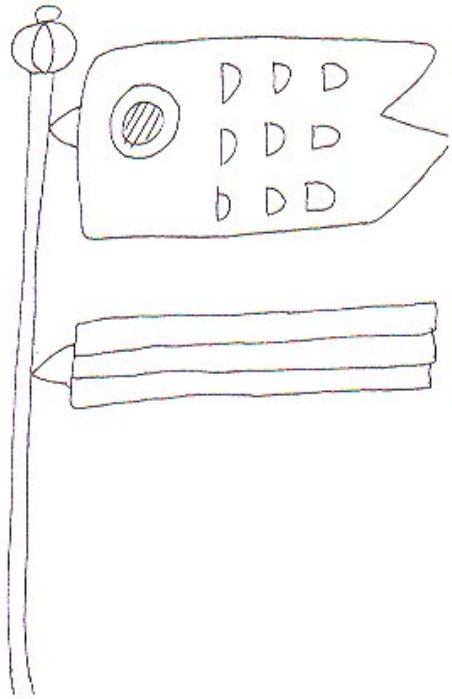
ダンスや歌う事、読書が好きな

女の子が描いてくださいました！

ありがとうございます☺

院長はじめスタッフ一同

心より感謝いたします♡



あなたからの贈りもの
固くて不自由で
私には重すぎて
でもあなたが私を選んで贈って下さった
今では私の人生を
輝かせてくれる大切なもの
やっとお礼がいえるようになりました
この身体ありがとう

星野富弘氏

氏は、1946年群馬県に生を享けた。元々身体能力が高く1970年群馬大学を卒業し体育教師となるが、同年6月17日、クラブ活動での指導中に頚髄を損傷し頚椎以下全ての自由を失った。最初はその瞬間を恨み悔み嘆いた。生きていても仕方ないとさえ思ったであろう。しかし自分を諦めることはなかった。

「患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出す」という言葉に出会い、「今の苦しみは希望に繋がっているのだと、そう自分に言い聞かせたという。

同室に入院していた少年がある日こう言った。「退院したらまた空手をしたい」と。しかし間もなくその少年は天に召されていった。氏は甦るきっかけをその少年からもらった。

以降、氏は役に立つ日にペンを持った。
この日より、詩人画家 星野富弘が誕生したのだ。
9年間に及ぶ入院生活の間に水彩画、ペン画を描き後に詩を添える様になり数多の作品を作り上げた。

この道は茨の道　しかし茨にもほのかにかおる
花が咲く。あの花が好きだからこの道をゆく
星野富弘氏

容易でないことは十分理解できる。しかし悲しみや苦しみを受容できた時ヒトは成長できる。

病気やケガに真剣に向き合わない人がいる。
原因を他人に転換する人がいる。その様な人が病気やケガを果たして克服できるだろうか。

黒い土に根を張り　どぶ水を吸って
なぜきれいに咲けるのだろう。
私は大勢の人の愛の中にいて
なぜ醜いことばかり考えるのだろう。　星野富弘氏

院長、拝